



みしま議会レポート

No. 192

令和3年5月発行

発行／大沼郡三島町議会
編集／議会広報編集委員会
〒969-7511 福島県大沼郡三島町大字宮下字宮下350
☎0241-48-5588
ホームページ <http://www.town.mishima.fukushima.jp>
E-mail: gikaie@town.mishima.fukushima.jp

中学校卒業おめでとう！
生徒 新たな旅立ち

3月
定例会

- 3月定例会のあらまし……………P2～5
- 一般質問
～議員が町政をただす～……………P6～14
- 議会活動報告……………P15
- 議会トピックス……………P16～17
- 議会の主な動き……………P18

3 月定例会のあらまし

3 月定例会は 8 日から 15 日までの 8 日間を会期に開催され、これから 10 年間のまちづくりの基礎となる第五次三島町振興計画、9 つの条例の制定・一部改正・廃止する条例や、指定管理者の指定 9 件のほか、令和 2 年度一般会計及び特別会計補正予算、令和 3 年度一般会計及び特別会計予算など、町長より提出された議案を審議し、すべて原案通り可決しました。

【議決結果一覧と条例改正等の主な概要】

議案番号	議 案 名 等	結果
2	三島町鳥獣被害対策実施隊設置条例 ・鳥獣被害防止特措法に基づき「鳥獣被害対策実施隊」を設置し、有害鳥獣駆除員は廃止する	可決
3	職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例 ・超過勤務時間の上限を原則、月 45 時間、年間 360 時間とする	可決
4	特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例 ・上記議案番号「2」の設置により、報酬区分の名称を「有害鳥獣駆除員」を「鳥獣被害対策実施隊」に改める	可決
5	職員の給与に関する条例の一部を改正する条例 ・職員に栄養士の採用にあたり、新たに「医療職給料表（二）」を定める	可決
6	三島町体育施設条例の一部を改正する条例 ・町民運動場（大登）の代表地番を 968 番地 1 に改める	可決
7	三島町国民健康保険条例の一部を改正する条例 ・新型コロナウイルス等対策特別措置法の改正に伴う文言の改正	可決
8	三島町介護保険条例の一部を改正する条例 ・令和 3～5 年度の介護保険料率を据え置く改正	可決
9	三島町そば加工施設設置条例の一部を改正する条例 ・機械設備整備に伴う機械の使用料を新たに定める改正	可決
10	三島町誘致工場等の貸付基金の設置及び管理に関する条例を廃止する条例 ・昭和 56 年に誘致工場振興の無利子貸付けのために制定した条例を、今後活用が見込みがないため廃止する条例	可決

議案番号	議 案 名 等	結果
11	第五次三島町振興計画の策定 ・令和 3 年度から新たな 10 年間のまちづくりの指針となる総合的な計画の策定。「人口減少対策」や「地方創生の推進」等に重点的に取り組む	可決
12	指定管理者の指定（三島町老人休養ホーム：ふるさと荘） 令和 3 年度からの指定管理者として、（有）伊勢屋を新たに指定	可決
13	指定管理者の指定（三島町高齢者生活福祉センター：福寿草） 令和 3 年度からの指定管理者として、社会福祉法人みしまを再指定	可決
14	指定管理者の指定（三島町高齢者自立支援住宅：ひまわり荘） 令和 3 年度からの指定管理者として、社会福祉法人みしまを再指定	可決
15	指定管理者の指定（三島町多目的集会施設：ひだまり） 令和 3 年度からの指定管理者、社会福祉法人みしまを再指定	可決
16	指定管理者の指定（三島町情報物産館：尾瀬街道みしま宿） 令和 3 年度からの指定管理者として、（有）マルシェみしまを再指定	可決
17	指定管理者の指定（三島町農林水産物処理加工施設：山菜加工場） 令和 3 年度からの指定管理者として、J A 会津よつばを再指定	可決
18	指定管理者の指定（三島町食鳥処理施設） 令和 3 年度からの指定管理者として、（有）会津地鶏みしまやを再指定	可決
19	指定管理者の指定（三島町農林水産物加工品等展示販売施設） 令和 3 年度からの指定管理者として、桐の里産業㈱を再指定	可決

議案番号	議 案 名 等	結果
20	指定管理者の指定（三島町木材加工施設：会津桐タンス工場） 令和3年度からの指定管理者として、 会津桐タンス(株)を再指定	可決
21	工事請負契約の変更（防災行政無線デジタル化改修工事） ・工事の内容変更に伴い、工事費を 10,149千円減額する変更契約	可決
22	令和2年度三島町一般会計補正予算	可決
23	令和2年度三島町国民健康保険特別会計補正予算	可決
24	令和2年度三島町簡易水道事業特別会計補正予算	可決
25	令和2年度三島町路線バス事業特別会計補正予算	可決
26	令和2年度三島町農業集落排水事業特別会計補正予算	可決
27	令和2年度三島町介護保険特別会計補正予算	可決
28	令和2年度三島町戸別合併処理浄化槽事業特別会計補正予算	可決

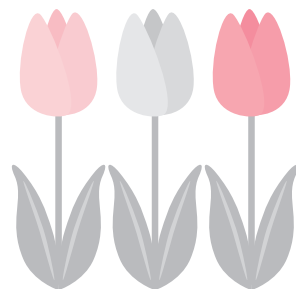
議案番号	議 案 名 等	結果
29	令和2年度三島町後期高齢者医療特別会計補正予算	可決
30	令和3年度三島町一般会計予算	可決
31	令和3年度三島町国民健康保険特別会計予算	可決
32	令和3年度三島町簡易水道事業特別会計予算	可決
33	令和3年度三島町路線バス事業特別会計予算	可決
34	令和3年度三島町農業集落排水事業特別会計予算	可決
35	令和3年度三島町介護保険特別会計予算	可決
36	令和3年度三島町戸別合併処理浄化槽事業特別会計予算	可決
37	令和3年度三島町後期高齢者医療特別会計予算	可決
38	三島町固定資産評価審査委員の選任同意を求めるについて※1	可決

※1 5頁「人事案件等について」をご覧ください。

【令和2年度補正予算】

（単位：千円）

会 計 区 分	補正予算額	補正後の予算額
一 般 会 計	△96,859	3,064,743
国民健康保険特別会計	△7,606	200,106
簡易水道事業特別会計	△2,525	197,117
路線バス事業特別会計	△600	31,608
農業集落排水事業特別会計	△276	26,612
介護保険特別会計	△3,397	492,464
戸別合併処理浄化槽事業特別会計	△13,102	36,063
後期高齢者医療特別会計	△4,036	30,713



令和2年度一般会計補正予算の主なものは次のとおりです

・高齢者支援商品券事業	2,400千円	・ふるさと宅配便支援事業	1,000千円
・PCR検査助成事業	10,000千円	・桐の里商品券発券事業	8,100千円
・桐の里商品券給付事業	16,000千円	・事業者支援給付金	2,000千円
・ふるさと産品応援事業	3,300千円	・宿泊クーポン助成事業	4,000千円
・地場産品販路開拓事業	5,000千円	・感染拡大防止対策補助金	2,200千円
・地元産材活用支援事業（公共施設桐製品導入）	3,289千円	・新型コロナウイルスワクチン接種事業	6,959千円
		・山菜加工施設経営強化支援事業補助金	3,364千円

【令和 3 年度当初予算の額】

(単位：千円)

会 計 区 分	令和 3 年度予算額	令和 2 年度予算額	対前年比
一 般 会 計	2,363,892	2,527,000	△163,108
国 民 健 康 保 険 特 別 会 計	192,318	195,594	△3,276
簡 易 水 道 事 業 特 別 会 計	117,112	192,779	△75,667
路 線 バ ス 事 業 特 別 会 計	31,417	30,148	1,269
農 業 集 落 排 水 事 業 特 別 会 計	21,805	26,888	△5,083
介 護 保 険 特 別 会 計	465,779	463,723	2,056
戸別合併処理浄化槽事業特別会計	42,832	49,165	△6,333
後期高齢者医療特別会計	32,737	34,419	△1,682

【令和 3 年度 重点事業】

令和 3 年度の各課の重点事業は以下のとおりです。

■総務課関係■

安全安心、消防・防災力向上に努めます。

- ・旧大石田分校解体 18,638千円
- ・旧大石田生活改善センター解体 5,090千円
- ・宮下地内消火栓改修 2,449千円
- ・桧原上新田地内防火水槽新設 11,472千円
- ・防災ハザードマップ更新 1,645千円
- ・広域圏消防費負担金 56,441千円

■産業建設課関係■

[農林関係]

有害鳥獣駆除事業や森林環境保全のための事業を促進します。

- ・有害鳥獣防護柵等設置事業補助金 5,000千円
- ・狩猟免許取得等補助金 600千円
- ・ふくしま森林再生事業 23,320千円
- ・公共施設設置桐製品購入 2,300千円

■町民課関係■

新型コロナウイルス感染症対策や町民の健康増進を進めます。

- ・新型コロナウイルスワクチン接種事業 9,980千円
- ・活動量計活用インセンティブ事業 810千円
- ・活動量支援事業 1,296千円
- ・トレーニング教室・運動普及事業 2,275千円
- ・不妊治療助成事業 750千円
- ・坂下厚生病院新築移転負担金 32,112千円

[建設関係]

道路の安全対策として川井地区の落石防止対策を実施します。また、町営住宅中平団地の改修工事を進めてまいります。

- ・町道川井居平宮ノ上線法面保護工事 14,000千円
- ・町営住宅中平団地住戸改修 42,194千円

■教育委員会関係■

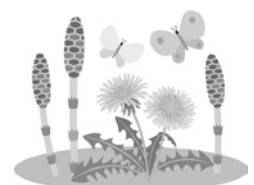
若者定住対策として世代間交流事業を実施します。併せて、教員宿舎を改修し定住対策住宅として活用してまいります。

- ・世代間交流促進事業 1,000千円
- ・教員宿舎改修工事 95,342千円
- ・学校給食完全無償化 3,587千円
- ・複式補正教員配置 4,788千円
- ・教育支援員 4,200千円
- ・荒屋敷遺跡出土品保存修理 7,873千円
- ・保育所外構芝生化工事 5,000千円

■地域政策課関係■

アフターコロナ対策事業等での観光促進や道の駅の駐車場を拡張し、さらなる誘客を図ります。

- ・地域循環共生圏推進協議会運営 1,100千円
- ・S S 過疎地対策計画策定 10,000千円
- ・観光交流推進事業 12,100千円
- ・道の駅駐車場拡張 23,307千円
- ・道の駅空調設備改修 55,500千円
- ・早戸温泉屋根塗装 26,400千円
- ・生活工芸館外壁修繕工事 17,000千円
- ・工人の館木工室改修 9,028千円
- ・プレミアム宿泊券事業 4,000千円
- ・地区支援事業補助金 5,000千円



【人事案件等について】

3月定例会では、1つの人事案件等について選任同意をしました。委員の方は下記のとおりです。

三島町固定資産評価審査委員会委員の選任された方	氏 名	地 区	備 考
	飯塚 国英	大石田	再任2期目

※1：三島町の固定資産評価審査委員会委員の定数は3名で、委員は、町の住民税の納税義務がある者又は固定資産の評価について学識経験を有する者のうちから、議会の同意を得て町長が選任します。委員会は固定資産課税台帳に登録された価格に関する不服等の審査を行います。

第五次三島町振興計画を可決

振興計画は町づくりを総合的かつ、計画的に進めていくために10年間の基本構想と、それを具現化するための前後期5年ずつの基本計画を議会の議決を得て策定します。

令和元年度は町職員と地区住民がワークショップを開き、5年間の「地区の目標」を定め、令和2年度は第四次振興計画の効果検証と、それに基づく計画づくりを進めてきました。

この間、5回の振興計画審議会、4回にわたる議会への説明と意見交換を実施し、3月9日の本会議で賛成多数で可決されました。

今後10年間、議会では町民の皆さんとともに、この計画に沿った町づくりが進むように協働してまいります。

第5次三島町振興計画の基本構想及び前期基本計画の目標

<基本構想>

「住みたい、住み続けたいふるさと（桐源郷）を作る～どこにでもある ここしかないふるさと～」

<基本計画>

「環境と調和し、人と人とのつながりで
安心して暮らせるまち」

●この基本計画は「分野別政策」と「重点プロジェクト」で構成されます。
特に「重点プロジェクト」は人口減少対策等の重

点的に取り組む事業を、以下の4つの基本目標を
定めて取り組んでいきます。

- 1 結婚・出産・子育てしやすい環境をつくる
- 2 地域資源を生かした仕事をつくる
- 3 交流人口から関係人口・定住人口につながる流れをつくる
- 4 生涯いきいきと過ごせる魅力ある地域をつくる

※詳しくは、各戸に配布される第五次三島町振興計画をご覧ください



振興計画審議会



地区での地区目標のワークショップ

一 般 質 問

～議員が町政をただす～

3月定例会では5人の議員が一般質問を行い、町政全般について活発な議論を交わしました。(7頁～14頁に掲載)

一般質問議員		質 問 事 項	頁
1	7 番 菅 家 三 吉	①会津地鶏について	7
		②除雪対策について	
2	2 番 二 瓶 辰 右 工 門	①当初予算編成について	9
		②第五次振興計画について	
		③新型コロナウイルス対策について	
3	1 番 矢 澤 昇	①三島町老人休養ホームについて	11
		②防犯カメラの設置について	
4	3 番 五 十 嵐 健 二	①町として今後の地方創生についてどう考えているのか	12
5	6 番 二 瓶 俊 浩	①コロナ感染症対応交付金による商品券給付事業及び 買い物弱者支援事業について	13
		②「日本で最も美しい村」について	

※一般質問とは…議員が町の将来に対する方針や、執行機関の政治姿勢を明らかにし疑問点等を質します。また、議員自ら政策の提言を行います。三島町議会では1人60分の持ち時間の間に質問答弁を行います。





菅家 三吉 議員

会津地鶏について

除雪対策について

会津地鶏について

問

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、直接・間接的に影響が出ている事業所が多く「会津地鶏みしまや」もその1つです。今年度、会津地鶏みしまやに行った町の支援、次年度行う予定の支援、そして会津地鶏の産業がこの町でどのような位置で、どのぐらい重要なのか。また今後、どのような会津地鶏の産業の発展を迎えていくのか、町のビジョンを伺う。

答

県の補助事業を活用して、近隣町村の学校給食に会津地鶏を納入したほか、三島町観光協会の特産品販売等で積極的なPR販売を図った。会津地鶏キャンペーンの期間を延長し、町内の宿泊・飲食店の仕入れ補助を2分の1から4分の3

に引き上げた。

来年度も、三島町会

津地鶏振興会による地

鶏キャンペーンの開催、

山菜加工場や町内の宿

泊・飲食店と連携した

新商品開発と食材提供

等について、地場産品

販路開拓事業により支援を計画している。

会津地鶏は、飼育に

こだわり、食味に優れ

た肉質であることから、

全国に誇れる三島町の

重要な特産品で、貴重

な地場産業の1つとし

て位置づけている。現

在の処理施設は老朽化

が進み、処理能力の限

界もあることから、新

たな加工処理による商

品開発も含めて施設整

備計画を検討している。

除雪対策について

問

降雪による町内の被害は。また家屋の除雪が困難な世帯はどのくらいあったのか。今後さらに高齢化が進む中で、町として家屋の除雪についてどのような考えを持っているか伺う。

答

豪雪対策本部を設置し、各地区の積雪状況の確認と、区長より情報収集を行った。併せて民生委員の方々に一人暮らしの高齢者世帯の確認をしていた。

被害は、間方地区で小屋1棟の倒壊、荒屋敷地区で小屋の傾き、名入地区で小屋1棟が倒壊したことを確認した。

除雪が困難な世帯数は具体的に把握できていない。しかし高齢者の一人暮らし・二人暮らしの家庭では除雪が



三島町特産の会津地鶏

困難だと思われるので、好評であった。

問 地鶏キャンペーン自体の実績は。

答 7月から11月までの地鶏キャンペーン時に830kgを納入。金額的には151万円を補助した。

雪支援体制整備を検討したい。

再質問

①会津地鶏について

問 会津地鶏に行った支援の中でその効果は。

答 会津地鶏振興会に支援した地鶏の納入量は年間で830kg。販路開拓事業で数社にチラシとサンプル肉を配布。うち1社から回答があり、その1社から5社を紹介してもらい、その5社にサンプル肉を配布した。学校給食としては三島町他近隣5町村に644kgを納入し

意見 セールスチャンスは待ったなし。企業努力をして、既存の施設で何とか営業を一生懸命やっている。早

めに改修等を行えば、事業所自体の体力の底上げに結びついたと思う。事業者との情報交換をもっと密にして、議会とも連携し、事業の拡充と雇用の増につなげるべきである。

②除雪対策について

問 町内の建設業者で構成される除雪支援隊にお願いする場合費用はどのくらいかかるか。

答 以前から要望はあった。建て替えは概算で2〜3億円必要になる。町の自主財源のみではなかなか難しいことから、県と相談して補助事業の申請について相談してきた。来年度以降に測量設計を行い、国の補助を活用して施設整備を検討したい。

問 今後、もう少し安価に、お金をかけずに支援依頼ができるようなシステムをつくるか。

答 現在役場に公共施設除雪の登録をしている方がおり、除雪が必要となれば、その方をお願いして行っている。こういったシステムを福祉で求めているところに導入、または利用者にその差額を助成するようシステムの体制を構築できればと考えている。

問 民間のボランティア団体、例えば若者世代で除雪隊をつくるか。移住者の方のためにも、地域に溶け込みやすいように、除雪を通して地域の同世代の仲間、若者の交流の場づくりにも繋げて、高齢者とも触

れ合えるような仕組みづくりができないか。また、作業後は、慰労会等の場で一緒に時間を過ごすということも含めて1つの活動にしてはどうか。

答 まずはすぐできる体制、そこから除雪のことについては始めたい。若者交流の話、

これも加えていけるような仕組みづくりも必要かと思う。若者交流も含め調整しながら、多角的、多方面に連携を取りながら、除雪については進めていきたい。





二瓶辰右工門 議員

当初予算編成について 第五次振興計画について 新型コロナウイルス対策について

当初予算編成について

問 昨年6月の定例会において、三島町の財政状況を分析し質問をしたところ、「歳入歳出の両面で健全財政に努める」との答弁であったが、令和3年度の当初予算編成はどのような方針で臨んだのか。

答 地方創生や第5次振興計画を着実に進めるため、子育て環境整備、地域資源を生かす定住人口へ継ぐ魅力ある地域づくりを念頭に、将来負担が少なくなるよう起債を抑制し、できるだけ現年度の予算規模を抑制することを意識した。

問 令和3年度の当初予算の特徴と町民に誇れる点、積残しや懸案事項は何か。

答 令和2年度からの繰越事業もコロナ

対策事業を中心に1億2千万円程度確保し、令和3年度当初予算と合わせ執行することが特徴的な点だと考える。

歳出は、SS過疎地対策計画、脱炭素社会への取組としての再生エネルギーの取組、将来に向かっての希望的事業や安全・安心につながる事業、人を受け入れる施設整備の継続等が、町民には頼もしく感じるのではないかと考える。

しかし、予定されている県立宮下病院建て替えに伴う町民運動場の再整備、ガソリンスタンド新設やふるさと荘建替えなど、大規模な事業に充てる財源確保などの懸案事項がある。

問 昨年6月の定例会においては、歳出面では「大胆な経常経費の見直しを図る」と

していたが、経常経費を調べてみると縮減されるどころか増額予算となっている。どのような経費をどの程度大胆に縮減したのか伺う。

答 経常経費の見直しである施設の廃止や人件費の抑制などについては、令和3年度当初に取り組むことができなかった。見直しは常に念頭に置き、財政状況を見ながら検討していく。

第五次振興計画について

問 今回の振興計画は、メインテーマが「住みたい、住み続けたいふるさと（桐源郷）を創る」。サブテーマが「どこにでもある、ここにしかないふるさと」であり、第四次振興計画と全く同じフレーズとなっている。

「長期計画なんて絵に描いた餅でどうでも

いい。それより目の前の困っていることをしつかりやってもらいたい」と言う町民の声が聞こえる。

本年度で終了する第四次振興計画に基づく「桐源郷づくり」はどの程度前に進めることができたと感じているか。また、その評価において町民目線との相違をどのように認識しているか。

答 第四次振興計画の事務事業は、全体的に少しずつであるが進めることができたと考えてる。

町民アンケート調査7項目中、施策全てで満足度50%以上の評価であった。その中でも、学ぶ場所と人づくり、あるいは、保健福祉の充実、社会生活基盤の充実については満足度が高く、住環境整備、地域資源の発掘活用、推進体制整備が低い。

その中でも特に雇用の場の創出が最も低く、若者定住の鍵となる部分については効果が見えないとの認識は一致しており、大きな相違はないと考える。

問 10年後の三島町の姿を見通したとき、何が最大の課題であると認識しているか。また、その課題解決のためにどのような対策を取ろうとしているか。

町民に分かりやすい言葉で簡潔に町長の思いを述べていただきたい。

答 最大の課題は、人口減少、特に若者定住であると捉える。その課題解決に向けて、人と人との出会い、結婚、子育てしやすい環境づくり、生活していくための糧を得る仕事をつくる、当町だからこそできる資源を生かした町の魅力を高める、安心安全のための社会

インフラを整備していくことを重点的に進めていく。

問 振興計画の策定に併せ、その実効性を担保するためにも「中期財政計画」を示すこととなっていたが、いつ、どのような形で説明するのか。

答 中期財政計画策定は、作業が思うように進んでいない。策定次第、議会へ説明する機会を設ける。

新型コロナウイルス対策について

問 コロナ感染症対策として国民一人一人の行動制限や防護対策に頼るには限界がある。そのためワクチン接種が現在の状況を打開する大きな一歩になってくれることを願う。ワクチン接種対策経費は前回の補正予算に計上されたが、その後

の状況と準備が完了しているもの、残っている課題は何か。

答 準備状況は、比較的順調に進んでいると考えている。ワクチン接種券の準備やコールセンターの設置も完了した。課題としては、国・県からの情報が報道よりも遅い事や変更等による対応に苦慮している。特にワクチンの供給状況が不透明で、数量や接種時期等不明な点が多い。

問 ワクチン接種には様々な意見や希望があるが、町民へのワクチン接種対応機関として、町の基本方針を伺う。

答 基本的方針は、国の示す接種順序に従い、可能な限り速やかに接種対象者の16歳以上の全町民に接種していきたい。一方で、副反応についての報道

が多いことから、受けるか、様子を見るか、判断がつかない方も多いと思うので、町民が判断しやすい情報を広報等で提供する。

再質問

①当初予算編成について

問 令和3年度予算において「経常経費の見直し」も予算のスクラップアンドビルドもできなかった。行政の内部でできないのなら、行財政改革等の外部組織を設けて答えを出したらどうか。

答 今後さらに内部で議論をしていきたい。議論した過程の中で、難しいということであれば、議会と相談しながら今後の方向性を定めたい。

問 情報公開が少なく、コロナ対策本部、何を議論し何を決定したか

答 情報公開が少なく、コロナ対策本部、何を議論し何を決定したか

情報が伝わっていない。誰でも傍聴できるように公開したらどうかと申上げたが実現しない。農業委員会は毎月の定例会の議事録をきちんと情報公開しており、何を考えどんな方向に向かおうとしているのか一目了然。町は最も大事な振興計画審議会ですら情報公開していない。住民の理解は情報に接することにある。積極的な情報公開を望む。

答 なるべく情報公開し、町民と寄り添うことが大切と考える。情報公開や議会から要望されたテレビ放送も含め、議論していきたい。

問 振興計画の策定に併せ「中期財政計画」を作成することを約束していたがどうな

②第五次振興計画について

問 振興計画の策定に併せ「中期財政計画」を作成することを約束していたがどうな

っているのか。作業が難しいことも判っているがその反面、小規模市町村だから取り組み易い面もある。振興計画を絵に描いた餅にしないためにも、中期財政計画を示すことが必要だ。

答 県の助言・指導を受けながら策定したい。

問 振興計画のメインテーマである「桐源郷」は見直した方がよい。桃源郷の語源や意味、福島の花見山公園の経緯についても話し、思慮深さに欠ける表現ではないかと主張したことに対してどう思うか。

答 桐源郷はみんなで桃の代わりに「桐の花」が咲くまちをつくらうということ、「桐源郷」になった。どういう町を自分た

ちが作っていくかが大事であり、理論ばかりではなく、歴史的な背景の中でできたことを理解いただきたい。

意見 長い歴史も大切なが、振興計画が進むにつれて社会経済情勢や取り巻く環境も変化している。桐の生産は激減、良材が少なくなり、桐タンスも売れない、桐の里マラソンも中止。これでは第五次振興計画は前計画と同じで、パロディのようになってしまう。「桐源郷」は考え直した方がよいと考える。

ちが作っていくかが大事であり、理論ばかりではなく、歴史的な背景の中でできたことを理解いただきたい。



矢澤 昇 議員

三島町老人休養ホームについて

防犯カメラの設置について

三島町老人休養ホーム (ふるさと荘)について

問

ふるさと荘は、コロナ禍前は只見線やビューポイント等の観光客で宿泊者が増え、訪日外国人等の利用者もあつた。コロナ後を考えると、ふるさと荘は町の重要な宿泊施設であり、顔でもある。

今後のふるさと荘の運営について、新たな指定管理者とどのような形で町の観光の中心として協力していくのか。

答

町の観光事業において、宿泊施設はとても重要な位置づけにある。只見線の全線再開通や県立自然公園の国定公園化などの広域的な取組が進んでいるなかで奥会津が注目と荘が新たに生まれ変わることも、さらなる誘客につながることを期待される。経済効果は宿泊があつてこそ高

まるものであり、新たな指定管理者とともにふるさと荘を拠点とした流域全体の経済の波及効果も生まれるように取り組みたい。

防犯カメラの設置について

問

様々な犯罪が起こる中、その捜査に重要な役割を果たすのが防犯カメラである。もし犯罪等が起こった際は、防犯カメラの映像は大変役に立つと考える。町民が安全、安心に暮らすためにも、町の重要な箇所等への設置について町の考えを伺う。

答

防犯カメラは、事件解決には大変重要な手がかりとなり、早期解決に役立つと考える。防犯の視点から確かに有効な手段と思えるが、一方で、常時人を映すことになり、施設等に来館するお客



三島小学校の防犯カメラ

様等のプライバシーの問題が出てくる。今年河川の状況を監視する防災カメラを設置したが、プライバシーに配慮し住宅の映像部分を黒く塗りつぶした。ただし、子供の命を守るという観点から、少しでも犯罪抑止になるならば、そちらを優先させたいと考え、保育所・中学校への設置については検討したい。

再質問

①三島町老人休養ホーム(ふるさと荘)について

問

飯坂温泉で旅館を営む伊勢屋より指定管理者の申請があつ

た。町外の方なので運営に懸念が残る。担当課長が宿泊したということだが、その感想はどうであつたのか。

答

施設そのものは老朽化しているが、清掃等は非常に行き届いており、接客についても積極的にお客様をお迎えするという姿勢が見てとれた。食事や入浴方法等、丁寧に説明を受け満足した。また日帰り入浴についても、地元からもよい評価を得ているという感想をもった。運営面に関しては、温泉地の中で経営しているので大丈夫であろうと認識を持った。

問

ふるさと荘の改築後の開催状況はどうなっているのか。

答

令和2年度はふるさと荘の閉館やコロナ禍対応もあり、ふるさと荘の改築という将来を見越した検討ができず開催していない。ただ、源泉の湧出量が非常に減っているため、それらも含めて、令和3年度に改めて検討委員会を開催したい。

問

以前は、ふるさと荘が再開すれば、温泉の湧出量の関係で桐の里倶楽部は閉鎖したいという考えだったと思うが現在はどうなのか。

町として今後の地方創生についてどう考えているのか



五十嵐健二 議員

ているのか伺う。

答

増え続ける空き家の活用を含め、テレワークやワーケーションなど多様な働き方が提唱される中で、企業等から町が選択されるように未活用の遊休施設を有効活用しながら、行政・民間企業・地域の協働の他、会津・奥会津エリアでの広域連携により積極的に取り組んで行く。

特定地域づくり事業組合については、柳津町・三島町・昭和村商工会が主催した説明会では、連携による運営が説明され、町も三町村での組合設立を視野に検討している。

問

テレワーク等による移住を積極的に進めていく考えは。

答

町としては進めていきたい。

問

町として今後の情報の発信等、活動の展開は。

答

県でも様々な補助、支援制度があり、県の補助支援制度を活用しながら、町独自で空き家の活用を含めて、新たな取組が必要であると考える。県と連携を取りながら進める。

問

特定地域づくり事業協同組合は、現在三島町・柳津町・昭和村の三町村商工会が準備のための準備委員会を開いて行動を起こしているが、町としてこの事業に対し、どのように考えているのか。

答

年間をとおして雇用するには難しい部分があるが、必要な時期に必要な人手を確保できることは、非常に取り組みやすい制度であると考えている。

要 望

テレワークに対する移住の問題も、特定地域づくり事業組合に対しても、移住・定住・雇用という問題に大きく絡んでくる。

答

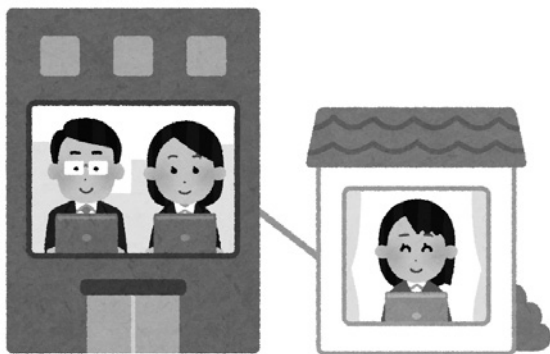
空き家の活用と町で有効活用されていない施設の再活用・

問

テレワークにおける就労の環境や住環境の整備はどうするのか。

答

この機会をチャンスと捉えて積極的に進めて欲しい。



問 町の人口減少と高齢化は、今後減っていく税収と増えていく医療費等のバランスが崩れることが大いに予想される。しかしテレワークによる地方への移住が多くなると考え、このことに対して町としての考えを伺う。

人口減少が続けば働き手不足が考えられる。柳津町で「特定地域づくり事業協同組合制度」について説明会が行われた。これは、様々な職種の事業所に労働力を提供する労働派遣事業であり、国の補助もある。この事業に対して町はどのように考えて

町として今後の情報の発信等、活動の展開は。

町としては進めていきたい。

町として今後の情報の発信等、活動の展開は。

町としては進めていきたい。

町としては進めていきたい。



二瓶 俊浩 議員

コロナ感染症対応交付金による商品券給付事業及び買い物弱者支援事業について

「日本で最も美しい村」について

コロナ感染症対応交付金による商品券給付事業及び買い物弱者支援事業について

問 昨年75歳以上の方々に5千円、全町民に1万円の桐の里商品券を配布したが使用状況はどうであったのか。

答 1人5,000円分の商品券を配付した75歳以上の対象者は476名で、1枚500円の10枚綴りで総配付枚数4,760枚中4,611枚が使用された。使用率は96.9%、換金額は230万5,500円、未使用分は149枚、7万4,500円。

使用分は640枚、32万円。取扱事業者は43事業者中37事業者で使用された。

問 買い物弱者支援事業は具体的に何をどのようにしたのか。

答 買い物弱者支援については、コロナ対策の一環として、コロナ感染拡大時期に町内外に買物に行くことができない方などを対象とした町内の飲食店等と連携した買物支援、テイクアウト支援を実施できるように検討を進めていく事業を想定。町商工会を窓口として事業構築を協議したが、調整不足により事業実施者を確保できなかったため、減額補正を計上した。

また、郵便局と協定を結び買物弱者の対応ができないか要請を行った。しかし生ものを発注することが、郵便局では許されないということで現在話が進んでいない状況にある。

「日本で最も美しい村」について

問 町民の方々にあまり理解されていないのが現状に思う。この活動をどのように考えているのか。

答 「雪国の手仕事を再生した生活工芸と日本一の会津桐」と「住民の暮らしに根づく民俗行事」の2つが地域資源として登録されており、これらを軸に地域づくりを展開している。地域の特性を生かした魅力ある地区づくりを推進していくための事業として地区支援事業補助金を設け、9地区がそれを活用し地区づくりに取り組んでいる。

また、住民自ら行う道路沿いの花植えや清掃活動、県事業のフラワーロード事業に対しても、「美しい地区づくり町民運動」として支援し景観整備を図っている。

問 今後どのように展開していくのか。

答 生活の営みにより形成されてきた里山の景観、環境や自然を敬い自然とともに生きていく中で続いてきた民俗行事等の伝統文化を守り、活動することで、観光的付加価値を高め、行政と住民の協働による持続可能な地区づくりに取り組んでいく。

再質問

①コロナ感染症対応交付金による商品券給付事業及び買い物弱者支援事業について

問 商品券給付事業は使用率100%であったが、当然の事業と考えるか。

答 使用期限がある中で、残り1か月になって周知活動も行ったが、個人的に誰が使っていないか等まで把握できていない。使用率100%を達成できなかったのは残念である。

問 使用にあたって町民の方々から何らかの意見はなかったか。

答 町に直接使用の方等について意見が寄せられたことはなかった。使えるところがないという話もあったが、ガソリンスタンドで使えるようになってからは、良かったという声もあった。人それぞれに捉え方はあると感じている。

問 買い物弱者支援事業はなぜできなかったのか。

答 買い物弱者と言われる方が、コロナの時期に買物等がで

いことを想定し、町内の事業者さんから商品を出せるような仕組みができないかと商工会と協議したが、実際に対応する人員の確保や、配達に必要な車両の手配などの調整ができず事業として実施できなかった。

問 昨年3月定例議会でも質問した際、

町長はしっかりと対策を進めたいと答弁している。町のトップが答弁しているのにあまりにもバックアップが足りないのではないのか。

答 福祉面で課題があり、また商工業者

を中心とした活動も現実的にうまく絡まず、結果が出せなかった。これについては、数年前から課題として上げているので、今後も取り組んでいく。

② 「日本で最も美しい村」について

問 この事業の根底は何だと考えているのか。

答 「日本で最も美しい村」連合の活動趣旨、小さくとも誇りを持って生活していくという活動理念が、当町のまちづくりの方向性と一致しているということ。

問 一部の人が動いているだけのようになってしまう。町全体として動くことが大事であると考えているか。

答 広く町民の方に理解されているとは我々も感じてない。各地区の地域づくり活動を通して、美しい村連合に加盟している三島町をもう少し浸透させたい。

問 町民に誇りを持っていたか、つ

まり意識をしていたかどうか事が大事であると考えているか。

答 地区住民の方々が、自ら考え、自分の地区をどうしていくかという観点を持ち、これまで続いてきたものを持続させるにはどうすればよいか考えることが必要である。

問 そのために町は何をしなければなら

答 町と住民とが協働して行っていくということが必要と考える。



the most beautiful
villages
in japan

「日本で最も美しい村」連合

議会活動報告

新型コロナウイルス感染症対策対応地方創生 臨時交付金に対する要望書を町長に提出

2月24日、青木議長と二瓶新型コロナウイルス感染症対策特別委員会委員長は町長に対して、3月補正予算及び令和3年度当初予算への議会としての新型コロナウイルス感染症対策事業の要望を実施しました。

要望内容は以下のとおりです。



町長へ要望書を渡す青木議長

- 1 コロナ禍において町議会の傍聴に制限がかけられている状況に鑑み、みしまテレビでの放映を可能とする経費を計上すること。
- 2 事業者給付金については、旅館、飲食店についてのみ限定するのではなく、これまで実施してきたように全事業者を対象とすること。
- 3 現段階でのPCR検査は希望者が少なくなることが予想されるため、検査回数の見直しをすること。
- 4 冬期間の外出自粛と寒さが続いたことにより、各家庭内での暖房費（電気、ガス、灯油など）が嵩んでいるために、各世帯に現金支援を行うこと。
- 5 介護福祉施設においては、利用者や職員への感染予防の観点から器具・機材の整備が必要とされているので、最大限の支援策を講じること。
- 6 再度「地鶏キャンペーン」を実施すること。
- 7 地元産材活用支援事業（桐チェスト、桐すのこベット）については、その利用者がごく一部に限られ不公平感が強いため再検討すること。

これらの要望は予算に反映され、町内の事業所の活性化や消費拡大、また、感染予防対策に役立つものと考えます。

三島小学校6年生意見発表会「未来の三島町のために」開催



三島小6年生のSDGsについての意見発表

2月17日、三島小学校6年生3名が総合学習の一環として勉強してきたことを「三島町の未来への提言」として発表を行いました。

「未来の三島町のために～再生可能エネルギーやSDGsの視点を通して」をコンセプトに、森玲奈さんが「ゴミゼロの三島町を目指して」、小柴美優さんが「自分たちが使う電気は自分たちでつくる三島町」、鈴木璃音さんが「人がたくさん集まり

活気のある三島町に」という3つのテーマで自ら調べた三島町の将来についてそれぞれ提案を行いました。

中でも、「3」が付く日は町民みんなでゴミ拾いをして、その拾った量を競い商品をあげるなどの具体的な提案も行われ、参加した青木議長からは「私たちはお金を上手に使うことを考える議会だが、今回の発表の中にはお金をかけずにできる提案があって、大変良かった。今後のまちづくりの参考にしたい。」等の感想がありました。

その他参加した議員も熱心に聞き入っていました。



左から、小柴美優さん、森玲奈さん、鈴木璃音さん

議 会 ト ピ ッ ク ス

三島中学校3年生「三島町次世代の議会」開催

1月28日、今年で2回目となる中学校3年生による「三島町次世代の議会」が開催されました。3年生5名が議長・議員となり、4名が一般質問を行いました。

議長役として二瓶教香さん、一般質問は、星明音里さん「美坂高原の活用について～フラワーパーク等での集客について」、菅家大貴さん「三島町の空き家バンクワーク・ラボについて」、飯塚真林さん「森の校舎「カタクリ」



真剣な議論が交わされた

の有効活用について」、五十嵐望さん「町の防災対策について」が4つのテーマで質問しました。

議会と同じ流れで議長役の二瓶教香さんが開会を宣言して、議事録署名人を決定し、町長の挨拶を受けて一般質問に入りました。

それぞれの議員の質問に対して町長が答弁し、その後の再質問には各課の課長が町議会と同じように答弁を行いました。「何年やっても成果が出なければ、もっと大胆な方針を打ち出すべき。」や「具体的にいつまでできるのか。」等の鋭い質問もあり、町側も答弁に頭を悩ませたところもありましたが、中学生の視点で三島町の未来を聞く良い機会となりました。

その後議員控室で議員との意見交換が行われ、「本当の議員のようで大変良かった。」や、「もう少し時間があれば、もっと突っ込んだ質問ができたはず、時間がない中でも良い質問ができた。」との感想もありました。



左から
星明音里さん
菅家大貴さん
二瓶教香さん
五十嵐望さん
飯塚真林さん

議 会 の 主 な 動 き

▶ 2021年2月 ◀

- 4 日(木) 新型コロナウイルス感染症対策特別委員会
12日(金) 広域市町村圏整備組合議会
(～22日、広域圏議員)
17日(水) 三島小学校意見発表会
19日(金) 新型コロナウイルス感染症対策特別委員会
22日(月) 議会全員協議会(第5次振興計画策定説明)
24日(水) 新型コロナウイルス感染症対応臨時交付金
要望
25日(木) 議会運営委員会
福島県町村議会議員議長会定期総会(議長)
両沼地方町村議会議員議長会臨時総会(議長)

▶ 2021年3月 ◀

- 1 日(月) 議会全員協議会(3月定例会議案説明)
8 日(月) 第1回議会定例会(～15日)
10日(水) 新型コロナウイルス感染症対策特別委員会
調査(ワクチン接種事業)

- 19日(金) 生活工芸アカデミー生修了式(議長)
24日(水) 土地開発公社監査(産業厚生委員長)
25日(木) 生活工芸村構想推進委員会
29日(月) 広域市町村圏整備組合議会全員協議会
(広域圏議員)

▶ 2021年4月 ◀

- 1 日(木) 教職員着任式(議長)
14日(水) 新型コロナウイルス感染症対策特別委員会
調査(ワクチン接種事業)
広報編集委員会
17日(土) J R只見線復旧状況視察・意見交換会
(金山町、議長)
20日(火) 議会全員協議会
21日(水) 会津地方開発総合協議会総会(議長)
23日(金) 三島町老人クラブ連合会総会(議長)
28日(水) 三島町戦没者遺族会総会(議長)

議会傍聴においでください

6月議会は **6月中旬**に開催予定です。

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、入場を制限することもありますので、
予めご了承ください。

編集後記

国のコロナウイルス感染症対策が思うようにいかない中、地域によっては第四波に入っているのではないかと言われています。コロナウイルス感染拡大で、経済活動も大打撃を受け、十万人近い人が解雇や雇止めにあっています。

そんな中、都市部の若者たちの間では、地方への関心が高まっているのも事実です。

今、コロナウイルス感染症対策として、一筋の光がワクチンです。しかし医療従事者に続くワクチン接種がいつになるのかはつきりしないことが不安です。三島町は現在まで感染者が一人も出ていません。これは町民ひとり一人の努力の積み重ねだと思えます。私たち大人だけでなく、子どもたちもきびしい生活を強いられています。一日も早いワクチン接種と、元のような生活に戻る事を切に願うばかりです。

議会広報編集委員会

編集委員長 二瓶 俊 浩
編集副委員長 矢 澤 昇
編集委員 二瓶 辰右工門
〃 五十嵐 健 二
〃 菅 家 三 吉